



..... 国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....

SUITA ESAKA ROTARY CLUB

CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27
 事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
 TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30
 会長:寺井正昭 幹事:成松 重人 会報委員長:田中 弘

2013年4月16日 第1086回例会(第1085号)

本日の例会

- 今週の歌 「われら日本ロータリアンの歌」
- 卓話 「税制改正のポイント」
東秀夫 会員

次回例会のお知らせ(4月23日)

- 卓話 「慢性肝臓病」
田畑勉 会員

前回(4月9日)例会記録

会長の時間 寺井 会長

先週は例会を休み申し訳ございませんでした。3月31日からの2012~2013年度GSEドイツハンブルクチームの受け入れに際しましては、ご協力いただき有難うございました。お蔭様で無事当クラブの任務を終えることが出来ました。このGSEとは『研究グループ交換』の略でロータリー財団の事業の一環として行われてきました。専門職務経験の浅い25歳~40歳までのチームメンバーが滞在国の文化や制度を体験し、自分と同じ職業が海外でどのように実践されているかを観察しながら、意見交換をしたり、個人的な関係や専門職業人としての関係を築いたりします。この度、ロータリー財団がFVP(未来の夢計画)導入により変革することに伴い、GSEのプログラムは今回を最後に終了することになります。

また今月はロータリーの雑誌月間です。この月間は、ロータリーの雑誌に対する会員の認識を深め、それによってロータリーの情報の普及を図ることが目的です。

出席報告 大井 委員

【4月9日】
 在籍会員 36名(内出席規定適用免除者 10名)
 出席会員 29名(内出席規定適用免除者 8名)
 ホームクラブ出席率 85.29%

3月19日のMUを含む出席率 90.63%

R Iの公式機関誌『ザ・ロータリアン』は今から102年前の1911年1月25日に創刊され、そのことを記念して当初は1月25日を含む1週間を雑誌週間とされていました。それが現在は4月に変更されております。

『手続要覧』のなかで、ロータリー会員は、会員身分を保持する限りR Iの機関雑誌『ザ・ロータリアン』等またはR I理事会から承認並びに指定されている地域的なロータリー雑誌(日本では「ロータリーの友」)を購読しなければならないとされています。これはロータリーの3大義務(例会出席・会費の納入・ロータリー雑誌の購読)の1つであります。

幹事報告 成松 幹事

GSEハンブルクチーム送別会のご案内

日時: 4月29日(月・祭日) 18:00~
 場所: ハイアットリージェンシー大阪
 寺井会長よりしくお願いいたします。

4月30日(火)は、休会です。

GSEハンブルクチーム ティムフブナー氏

GSEチームのティム氏に新潟のいちご「えちご姫」を味わっていただくお手配しましたところ、

関西大学RAC例会出席担当
 Eグループ 新井、北村(雅)、延、北村(康)、
 成松、寺井、内田各会員

4月22日(月)

会場: 関西大学千里山キャンパス
 中央体育館 図書資料室

時間: 19:00~20:00



Thank you very much for everything you have done for me. The Strawberrys were very delicious and I am really looking forward to drink the Sake with my wife in Germany.
F.L.'s 5/12 Thu. Hibiya



新発田 R C の松田様より、ティム氏のために新潟の地酒、発泡性純米酒の「あわっしゅ」というお酒を贈っていただきました。ロータリアンとしての心遣いに感謝いたします。

ティム氏から御礼のメッセージを頂きました。「イチゴもおいしかった。お酒はおいしいので、ドイツに持って帰って妻と一緒に楽しみたい」と書いてあり、実際に持ち帰るようにカバンに詰められたそうです。

“まいど おおきに” の大阪弁も覚えられたようです。

ニコニコ箱

新井会員 前回欠席のおわび。すいません！
寺井会員 先週欠席してすみません！ ホームステイ無事任務を終了しました。ありがとうございました。

成松会員 ^{しばた}新発田 R C 松田様の心遣いと友情に心より感謝いたします。

本日分 18,000円

累計 1,112,000円

卓 話

「創業100年企業の特徴」

西山俊明 会員

1. 創業100年以上の会社の数（平成24年4月国税庁の公表）

日本の法人数は、現在258万社。

うち赤字会社188万社と73%が赤字企業。公開

会社数は3,566社

創業100年以上の会社数は推定で5万2千社

2. なぜ、日本には100年企業が多いのか

四季があり自然が豊か、水がきれいな国で、繊維業や酒造業が古くから発達した。

日本の場合、万世一系で天皇家は125代続いています。他の国と異なり、続けることを大切にしている精神・文化が根付いているといえます。

3. 100年企業の特徴及び違い

江戸時代から続いている企業は、完全な実力経営をしていたからとされている。

御曹司は、経営には一切参加しない場合が多かった。

経営の実務は無名の丁稚小僧から修羅場をくり抜け、叩き上げの番頭が娘と結婚し経営を行っていた。これが長く続いた秘訣です。

常に「次の世代につなぐ」こと重視して経営され、拡大して引き継ぐとはしない。

経営理念とのれんを次世代に引き継ぐ。しかし、生産技術、販売方法、販売エリア、顧客、仕入先事業内容、商品、サービス内容は時代に合わせて変えている。

近江商人の三方よし「売り手よし、買い手よし、世間よし」に近い考えです。

老舗企業は常に改革を続けています。とらやの黒川社長は、「伝統とは革新の連続である」と述べています。新しいことに次々とチャレンジしているのです。

老舗企業は、徹底的にこだわり続けます。素材へのこだわり、味へのこだわり、品質へのこだわりなど。半端なものではありません。

「財を残すは下、事業を残すは中、人を残すは上」という後藤新平の言葉。いくら財産を残しても、財産はアツという間に無くなってしまいます。後継者が大きな投資をして失敗をすればそれまでです。事業を残して「儲かる仕組み」を残したとしても、時代が変われば「儲からない仕組み」になってしまうことになります。時代が変わっても「人」を育てておくことが一番です。良い人を残せば、どんな状態になっても、新しいことを考え出し、新しい「儲かる仕組み」を作り出してくれます。

人が育つ仕組み作りの基本は、(1)考えさせる (2)発言させる (3)行動させる (4)反省させるのサイクルを繰り返すことです。これを繰り返せば、社員は自ら伸びていきます。